第17回 東北みらいDX・i-Construction 連絡調整会議を開催(R7.11.10)

国土交通省
東北地方整備局

東北地域の建設現場においてDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進による生産性の向上や、魅力ある建設現場を目指すことを目的とし、有識者、発注者及び建設業団体からなる会議を開催した。
(東北地方整備局会議室＆WEB会議システム併用)
【 議　事 】(1)整備局・自治体による担当者会議の開催概要　(2)人材育成・確保の取り組み
(3)東北地方整備局からの情報提供

◆出席者

【 有 識 者 】 東北大学大学院　高橋特任教授、大竹准教授、
宮城大学　蒔苗教授
【国土交通省】 東北地方整備局、i-Constructionサポート事務所
【自　治　体】 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市
【業 界 団 体】 東北建設業協会連合会、日本埋立浚渫協会東北支部、日本建設機械施工協会東北支部、建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ協会東北支部、東北測量設計協会、東北地質調査業協会、日本建設機械ﾚﾝﾀﾙ協会東北協議会、日本道路建設業協会東北支部、建設電気技術協会、OCF東北部会

【議事】(2)人材育成・確保の取り組み

人材育成をメインに各会員の取り組みを報告
・東北土木技術人材育成協議会によるインフラDX基礎技術講習会の開催
・DX・i-Con体験学習会や現場見学会の実施(中学 高校 大学 親子イベント)(各会員)
・バックオフィス業務に対する支援(岩手県、福島県)
⇒人材育成、生産性向上、DX推進に係る事業への補助金制度
・DX・i-Conの推進(宮城県)
⇒総合評価の加点措置、AIを活用した道路維持管理、通報可能なアプリによる維持管理
・大学で講義を実施し、港の魅力を学生に発信(埋浚)
・研修への講師派遣(各会員)、資格取得支援(地質協)、自社社員向けセミナーの実施

【議事】(3)東北地方整備局からの情報提供

・ICTサポーター制度
・インフラDX大賞、みちのくインフラDX奨励賞について
・プロジェクトCDEについて

【議事】(1)整備局・自治体による担当者会議の開催概要

目的：発注者が抱える課題に対して本質的な意見交換を行うこと。
1)ICT施工の普及について
2)BIM/CIMの推進について
3)DX推進室からの情報提供
4)ICT施工普及促進方策(案)

担当者会議の開催は課題解決やICT施工推進の情報共有として有効

担当者会議の実施により、現状や課題が共有され自治体間のICT施工に関する温度差が解消。さらなる普及促進の取り組みとして、

❶事例集の作成　❷ICTサポーター制度の活用
❸意識改革の取り組み(山形県の事例)
❹事例報告の活用　❺企業支援策(補助金等の情報)
❻東北建設業協会連合会の各支部総会での経営者セミナーの実施

ー 有識者からのコメント ー

- 各会員が積極的に活動をされていて非常に良い。魅力発信は人材確保において重要。
- 子供や学生がインフラDXに直接ふれる機会は、人材確保において有効であり、子供の進路決定において親の意見も反映されることから、保護者にも建設業を理解いただく事が重要である。
- イベントのアンケート結果において、ネガティブな意見の解析が今後の活動に重要。
- 研修等で身につけたスキルを生かす機会をつくる、普段使いできる環境整備が必要。
- 各会員が行っている研修の種類や分野を整理し提供できれば、さらに良い。
- 除雪グレーダー等のシミュレーター体験は、若手の人材育成にとても有効。さらに活用の場を広げてほしい。
- DX・ICT施工のさらなる普及拡大は、利点とコストのバランスが課題。補助金や総合評価など、インセティブの付与も大事。
- リクルートにおいて、若手ＯＢの講話は、学生にとって近未来の自分を重ねられる良い取り組みである。
- 土木だけでなく、他の分野との連携や参加も検討願いたい。
- 学生に対し「難しさ」の発信も大切。建設業の高度な技術や難しさも魅力。
- プロジェクトCDEの展開に期待。